

2021年1月4日

BS12 トウエルビ

(ワールド・ハイビジョン・チャンネル株式会社)

2021年 年頭の辞

ワールド・ハイビジョン・チャンネル株式会社 代表取締役社長 須磨直樹による全役職員向け

「2021年 年頭の辞」を下記の通りお知らせ致します。

記

新年あけましておめでとうございます。

昨年は世界中が未曾有の事態に見舞われ、その環境に身を置いた1年となりましたが、こうして皆様と元気に新しい年を迎えることができることをまずは何より嬉しく思います。振り返ると、年初に感染対策、IT基盤の整備、リモートワーク制度導入、制作体制、予算見直しなど、所謂「守り」を迅速に固め、企業としての有事における耐性を高められたことで、経営課題に確り対応できたのではないかと思います。「未来に向けた挑戦の歩みは決して止めない」。コロナ禍の中でも、私は皆様にこのようなメッセージを出し続けました。そして、無観客ライブ配信、見逃し視聴をはじめとする、ネットメディア領域へのさまざまな活動を着実に実行し、年末にはeスポーツチーム発足という当社新規事業にとって大きな1歩を踏み出すなど、新しい可能性の扉を開けることが出来たと思います。一方、中核の放送事業では、我々が長年育ててきたアジアドラマ枠の平日16-18時帯において、2020年上半期(4-9月)期間トータルでの総合視聴率でBS1位を達成。クライアントの皆様とも、営業活動の制約ある中、非常に良い関係を維持させて頂いたこともあり、事業進捗は、現時点で、昨年対比増収増益のペースを維持しております。これも、皆さんの創意工夫と尽力及び関係者の皆様のご支援の賜物であると改めて感謝申し上げます。

今後も、コロナ禍は続き様々なことが変化するでしょう。我々の企業耐性は昨年1年で実証されております。世の中の動静に目を配り挑戦していきましょう。中核である放送事業では、気付きや感動のツボを発掘し視聴者や業界の皆様から「トウエルビらしい」とご評価いただける番組編成を目指しつつ、新規事業では①コンテンツ領域拡大 ②メディア開発 ③収益の多様化という3本の矢を更に太くし、経営基盤の重層化を図る。業界全体が抱える課題にトウエルビらしく挑み、放送局としての新しいビジネスモデル変革の土台を築く。ここに皆さんの知恵を結集し、開いた可能性の扉から、新しい景色を眺め、そして、私たちの近未来、10年後、20年後のあり姿への道のりに各人一人ひとりの足跡を残していこうではありませんか。

今年は、未来を創る大切な1年です。皆さん1人1人にとって納得のいく充実した1年を送れるよう祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

以上